

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

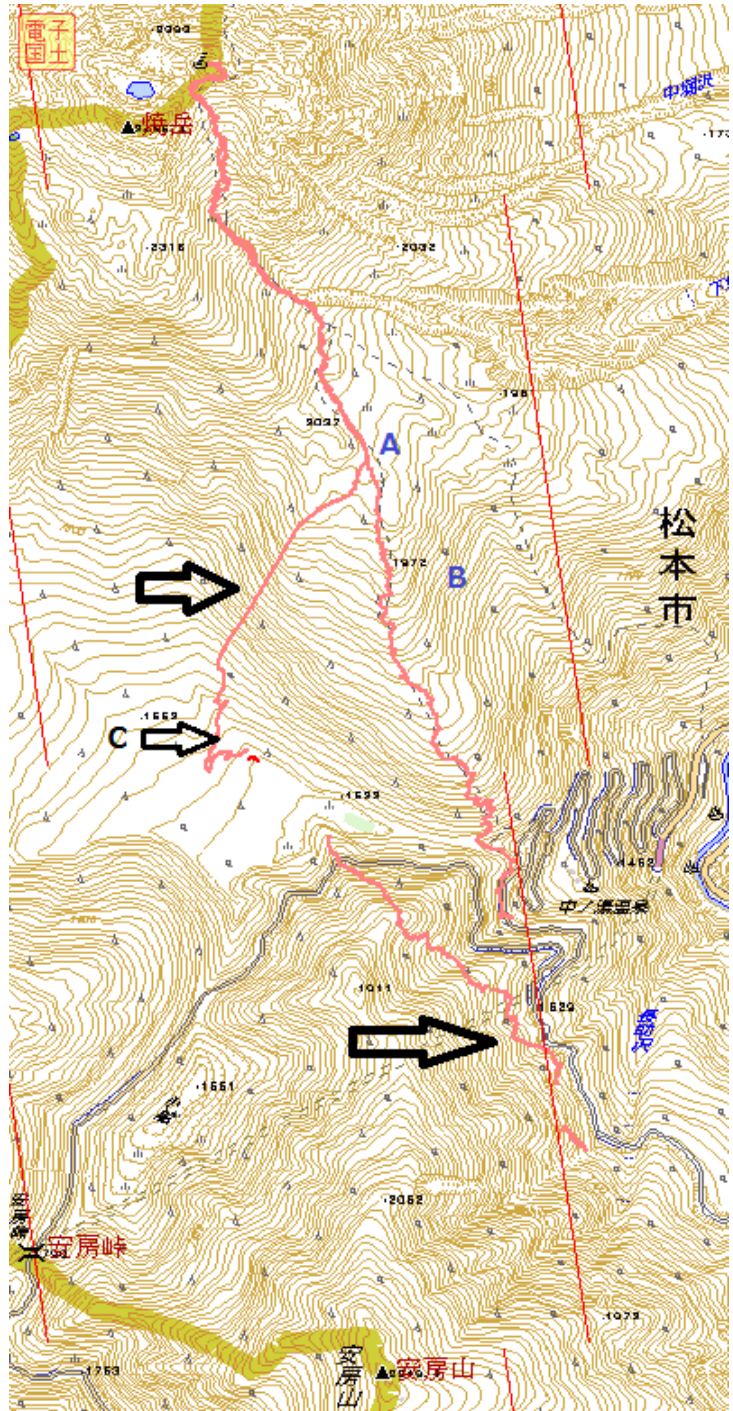
池田工業高等学校

GPSのログがこんなにずれることがあるのだろうか（焼岳で）

週末には台風が接近して大荒れになるというニュースが報じられていたが、上陸とともに温帯低気圧となり、前線の位置も長野県からはやや離れた位置にあった。そこで、もし9月1日の朝、天気が落ち着いていたらという条件で、大町山の会の山内君といつでも逃げ帰れるような山に行こうと、焼岳に行くことにした。朝起きると、何とか午前中は天気が持ちそうだ。そこで、予定通り7時に集合場所の松本合同庁舎に向かった。

歩き始める前にGPSのスイッチを入れるが、のっけから何かGPSの様子がおかしい。まったく現在地を示さないばかりか、途中それほど深い林でもないのにしょっちゅうロストする。山内君に聞くと彼のGPSも、ロストしてログが切れ切れだという。僕のはオレゴン550、山内君のものはオレゴン450。右のログをみていただきたい。左側の矢印で示した部分がどう考えてもログとしておかしい。

僕らはもちろん、行き帰り別のルート歩いたわけではない。地図で確認し、周囲の地形を見ても間違いなくというか、当然右側の登山道のついでに尾根を登っていった。登山口から一登りして、明確に地点確認ができるB地点（1978m標高点）で



休憩をしたはずだが、その時のGPSはC地点を表示していた。休憩後しばらく歩いた後、A地点でようやく表示は正常に戻り、以後は帰りも含め概ね正しいトラックを記録していた。

さて、ここで考えたいことが二つある。まずその一つはこの時、同行した2人のGPSがいずれもどう考えても妙な動きをしていたということ。二つが同時に故障するというのは考えにくい。折から米軍のシリアへの侵攻が取り沙汰されている時期（ここ数日で事態はだいぶ変わってきたが、まさにすぐにでもオバマ大統領は決断をするかのようなニュースが流れていた）でもあり、軍事的に極めて微妙な時期であった。まさかとは思いますが、そういう状況で一時的に米軍のスクランブルがかかっていたということは考えられないだろうか？米軍の打ち上げた衛星からの電波を受信して位置を割り出しているわけだから、その影響が現れることは十分考えられる。勘繰りすぎなのかもしれないが、二人のGPSがいずれもおかしな動きをしたというのが、なんとも不思議でまるで狐につままれたような経験であった。

そして、もう一つ、これが重要な点だが、僕らは明らかにGPSの異常に気が付いたので、何度かスイッチを入れたり切ったりした。しかし、それほど藪が濃いところでもないのに、GPSはほとんどない位置情報を示し、時にはロストした。そこで僕らは地図を参考に現在地を確認して歩いて行った。GPSとの違いをむしろ楽しみながら……。もちろん、僕らの歩いているところは明確な登山道があり間違えるような場所ではないし、実際これまでも歩いたことがあるので、まず道迷いの心配はしていなかったし、自分たちの位置を明確に把握しながらGPSがおかしいと言いながら歩くことができた。ただし、僕の手参していた1/25000「焼岳」図幅は、平成4年発行のそれだったので、安房トンネルも新しい中の湯も、そして僕らのたどった中の湯からの登山道も記載がなかった（右図参照）。だからもし、これが全く土地勘のないような場所であったり、登山道を外れた場所で起こったりしたのであったらどうであっただろうか？人間というものは不思議なもので、一度思い込んだらなかなかその考えを修正できないものだ。そしてGPSがまさかこれほどずれているとは考えないというのが、常ではないだろうか。現に地図を持っていて道迷いをしたことだってこれまでに何度もあった僕。その時の原因をあとで考えてみると、間違えた箇所では何かの思い込みから思い違いをしていて、それを修正できないまま先へ進んだというようなことが多い。



この時もし道を踏み外してしまったとして、地図を持っていなかったり、地図を読む力がなかったりしたらどうだろう。GPSがあるからトラックバックで帰れるだろうと考えて、それを頼りに歩いて遭難していたかもしれない。GPSは電池が切れても使えない。やはり、どんなときにも地図の持参、地図を読む力は大事だと再認識した次第。